



ほっこり…



No.12 2017.4.25
甲良町子育て支援センター
所長 大橋

新しい年度が始まりました。ついこの前まで支援センターに遊びに来てくれていた子どもたちの多くが保育センターに入園され、お顔があまり見られなくなり寂しいのですが、「お友達と元気にあそんでいます」という話を聞くと、自分のことのように嬉しくなります。

そろそろ入園当初の緊張から疲れが出てくる時期ですね…

今まで元気に登園していたのに、急に行きしぶりを起こしたり、泣いたりすることもあるかもしれませんが、誰もよくあることなんです。心配だと思いますが、まずは「今までがんばったから疲れたんだね。よくがんばったね。」とギュッと抱きしめてあげてくださいね。大好きなお母さん、お父さんの温かい腕の中は子どもたちの“がんばる力”の源です。いっぱいエネルギーを補充できたら、また少しずつ自分で前に歩みだしていってくれます。

でも…「そんなこと言っても心配。いつまで続くの？」と、まわりの大人は気が気ではないですよ。そんなときは一人でかかえこまないで、園の先生に話してみましょう。園での様子を教えてもらえたり、どんなふうに先生が対応してくださっているかもわかって、きっと安心できると思います。もちろん、支援センターにも話をしにきてくださいね。

話すことでホッとできたり、アドバイスをもらえたり、気持ちが楽になると思います！

トイレトッパー大事件！？

園長時代に保護者の皆さんに園での子どもたちの様子やエピソードなどを紹介する、園長だより「つぶやき」を発行していたのですが、それを懐かしく見ていたら、こんな面白い出来事が出てきました。皆さんにも紹介したいと思います。

5月中旬頃の5歳児トイレでその事件は起こりました。

「せんせい、大変！！トイレに紙がいっぱいになってるー！」……あわてて様子を見に行くと便器の上トイレトッパーの山が！

前日も同じようなことがあったため、担任は、誰がしたのか？といった犯人探しではなく、この状況を一人一人に見てもらい、子どもたちがどんなふうに感じ、考えるのかを大事にしようとしたそうです。

そして…なんと、子どもたちの反応は見事に二つに分かれたというんです。

A 「え～っ、なんでなん！ あかんやん！ どうしよう」(…と、怒りをあらわにする)

B 「私(ぼく)は知らないで。私はしてない」(…と、自分ではないと訴える)

子どもが失敗したり困ったことをしたとき、つい、「誰がしたの?!」と声をあげてしまうことが多いのが私たち大人です。でも、その後の対応が本当はとても大事なんですね。

「だれがしたか？」を追求して叱るより、その失敗や困ったことに対して、「そのことはよくない、だから、これからはどうしたらいいか」を子どもと一緒に考えることの方(大人が一方的に押し付けるのではなくて)が子どもの成長にとっても大事なんだと思います。

もし普段から「なんでそんなことしたの?」「誰がしたの?」と口やかましく言われていたら…

Aのように「困った、どうしよう」と考えるようになるか、Bのように「自分は違う!」と自分のせいではないことばかりを気にして訴えるようになるか……。考えさせられる事件でした。